市民クラブ海外視察報告

２０１７年１月２０日(金)～１月２６日(木)

アメリカ合衆国(アナハイム市・ロサンゼルス市)

<The 2017 NAMM Show>

<Musicians Institute>

<JETRO Los Angeles>

<LACI(インキュベーション施設)>

浜松市議会　市民クラブ

INDEX（目次）

１．会派会長所感 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.１

２．視察団メンバー　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.４

３．海外視察計画の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.５

４．視察行程表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.６

５．事前勉強会の概要

①２０１６　楽器フェア視察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.７

② JETRO（JETRO Los Angeles 前所長 [redacted] 氏）　・・・・P.１０

６．視察報告（視察先別報告と担当議員の所感）

①1 月 21 日(土)～22(日)　The 2017 NAMM Show

（浜松市ブース・カワイブース）　・・ P.１２

②1 月 21 日(土)～22(日)　The 2017 NAMM Show

（ヤマハブース）　・・・・・・・・・・ P.１８

③1 月 23 日(月)　Musicians　Institute / LACI　・・・・・・・・ P.２１

④1 月 23 日(月)　JETRO Los Angeles　・・・・・・・・・・・・・・ P.３１

⑤1 月 24 日(火)　American　Honda　Motor　Co., INC　・・・・ P.３４

７．産業部との意見交換　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.３６

「アメリカ合衆国（アナハイム市・ロサンゼルス市）を視察して」

市民クラブ会長　斉藤　晴明

本市は、市内の中小企業に対して海外販路開拓を支援するため、2016 年からドイツ・デュッセルドルフで開催されている世界最大規模の医療機器の見本市である「COMPAMED」、2017 年からはアメリカ・サンフランシスコで開催されている世界最大規模の光・電子産業の国際見本市である「Photonics　West」、そして本年度からアメリカ・アナハイムで開催されている世界最大規模の楽器（音楽関連機器等）の国際見本市である「NAMM　Show」、それぞれに「浜松市ブース」を開設し出展している。

今回視察した「The　2017　NAMM　Show」は、世界 100 か国以上から来場する有力なバイヤー、世界の主要な楽器・音楽関連のメディア、150 を超えるネットワーキング・イベントを開催、出展者数 1,500 社以上、来場者数約 100,000 人以上と、まさに世界最大規模の楽器フェアであり、今回の出展により市内中小企業４社が世界中から来場するバイヤーとの商談・マッチングをすることで、世界市場への販路開拓を目指すものである。

今回出展した 4 社は、市内大手企業の OB であったり、他業種からの技術を活用するなど、本市が「ものづくりの街」だからこそできる出展でもあった。

アメリカ、特に西海岸は音楽のメッカとして音楽に関わる人や環境が桁外れに大きく、可能性は無限大にあるが、他方、過当競争が激しい部分もあり、こうした官民あげての継続的な取り組みが必要である。

公的な海外支援は、県の国際経済振興会（SIBA）の「中小企業海外市場開拓支援事業」、浜松地域イノベーション推進機構の「海外展開事業化可能性調査費補助金」、日本貿易振興機構（JETRO）の「海外ブリーフィングサービス」「海外ミニ調査サービス」「海外販路開拓支援」、本市の「アセアンビジネスサポートデスク」そして今回視察した「海外販路開拓支援事業」など多数あるが、これは国内市場が縮小していく中で、特に中小企業の海外進出支援は重要な施策であり、当会派からも政策提言を行っているが、こうした支援のあり方の検証も含めて今回の現地視察は価値あるものであり、引き続き今後の議会のなかで会派としてしっかり取り組んでいくこととする。

「NAMM　Show」には、これまで市内大手のヤマハ、カワイ、ローランドなどが独自で出展しているが、特にヤマハの規模は他メーカーの追随を許さないほど大規模であり、アメリカ市場はヤマハ総売り上げの２０％、アメリカ市場全体の２５％がヤマハが占めているとのことであり、ヤマハなど大手と中小企業とのさまざまなケースでのマッチング・コラボの可能性について、本市として模索していく必要がある。

Musicians Institute（通称MI）は、河合楽器製作所や日本楽器製造（現ヤマハ）に勤務経験のある渋谷尚武氏が経営しているアメリカの音楽大学である。ミュージシャンズ・インスティチュートを視察し、ミュージシャンはもとより音作りのプロを養成する施設を見学し、経営者である渋谷氏とも懇談した。

渋谷氏は音楽で世界を目指す若者たちにチャンスを与えたい一心で、日本はもとよりアメリカでも活動を進め、逆に世界をリードするアメリカで使用している教科書を輸入し、音楽教育のカリキュラムを見本とした音楽学校をMI　JAPANとして日本全国に6カ所開校している。

本市にも楽器製造だけではなく音楽教育を含めたソフトを広めていき、そのためにも本市に音楽学校の誘致を含めた取組みが必要である。

JETRO Los Angelesでは、カリフォルニア州の基礎情報や都市の特徴、経済・政治・主要産業の特徴、南カリフォルニアにおける日系企業の状況の説明を受けた。ロサンゼルスのロングビーチ港は、全米の全輸入量の約4割を占め、東アジアとの貿易が全体の約8割を占めている。カリフォルニアは世界を代表する映画の都、ハリウッドがあり映画関連企業約 13,000 社が立地し日系企業も約８０社が拠点を持ち、他業種も含めると約700社に達することを考えると、カリフォルニアはアメリカにとっても、日本、本市にとっても大変魅力的な地域である。今後、楽器以外にも農産品など含めた本市のさまざまな分野において交流できる可能性がある。

ロサンゼルス・クリーンテックビジネス・インキュベーター（LACI）は国、ロサンゼルス市、ロサンゼルス電力水道局の3社が共同出資し設立し、環境に特化したインキュベーション施設で、環境技術系スタートアップを呼び込み、ロサンゼルスの環境改善と投資・雇用増につなげたいとしている。

具体的な支援プログラムには、貸オフィスをはじめファイナンス、マーケティング、商品開発、ビジネス戦略、法律上のサポートなどあり、さまざまな専門家からアドバイスを受けることができる。

スタートアップの集積地とされるロサンゼルスであるが、スタートアップ企業の成功率は1割未満と厳しい状況となっている。

LACIは貸しオフィスや会議室などの基本的な設備に加え、製品の試作品を作るためのプロトタイプセンターが設置されており、この取り組みは本市にも事業化できる可能性を秘めている。

アメリカンホンダ本社では、アメリカ・カリフォルニアにおけるZEV規制の概要と対応、自動運転車の取組みなど説明を受け、あわせて燃料電池車に体験乗車させて頂いた。

ZEVは排ガスがゼロの自動車で、環境への負担を軽減できることから、アメリカではこのような自動車の販売を促す規制が広がっており、特にカリフォルニア州では「電気自動車（EV）」「燃料電池車」「プラグインハイブリッド車（PHV）」などをZEVとして認定し、メーカーごとに販売台数の一定比率をZEVにすることを義務付けている。もしも達成できない場合は多額の罰金を支払うか、競合他社から「排出枠（クレジット）」を購入しなければならないなど厳しい仕組みであり、ホンダとしてもライドシェア、カーシェアリング、トランプ政権下での日本車への対応など、さまざまな困難を克服しながらの企業展開がされていた。

本市において、電気自動車のEV充電ステーションの取組みはされているが、今回のアメリカ・カリフォルニアの現状を見ると、燃料電池車に対応する水素ステーションの設置も視野に検討すべきである。

結びに、今回の視察にあたって多くの関係者の皆様にご支援・ご協力頂いたことに感謝を申し上げ、また今後、市民クラブとして今回の視察が本市の発展に寄与できるよう努力していくことをお誓いをし視察報告とする。

視察団メンバー

	氏名	区	期数	所属委員会（役職）
	斉藤　晴明 （会長）	中区	6期	総務委員会 地方創生調査特別委員会
	徳光　卓也 （幹事長）	西区	2期	環境経済委員会（副委員長） 行財政改革・大都市制度調査特別委員会 （委員長） 大型スポーツ施設調査特別委員会
	丸井　通晴	南区	8期	厚生保健委員会 危機管理特別委員会
	平間　良明	中区	2期	市民文教委員会 新病院・新清掃工場建設調査特別委員会 大型スポーツ施設調査特別委員会
	鈴木　唯記子	中区	1期	環境経済委員会 地方創生調査特別委員会
	北野谷　富子	浜北区	1期	建設消防委員会 行財政改革・大都市制度調査特別委員会

海外視察計画（概要）

日　程　：　２０１７年1月２０日（金）から1月２６日（木）まで
出張先　：　アメリカ合衆国（アナハイム市・ロサンゼルス市）
出張者　：　斉藤晴明、徳光卓也、丸井通晴、平間良明、鈴木唯記子、北野谷富子

【渡航目的】

本市は、市内中小企業の海外販路開拓を支援するとともに、産業集積都市としての本市の国際的プレゼンス向上を目指して、アメリカで開催される国際見本市「The　２０１７　NAMM Show」に「浜松市ブース」を確保し、市内中小企業と共同で出展する予定。この「The　２０１７　NAMM　Show」を視察し、今後の中小企業の海外販路開拓支援に向けた政策立案に役立てる。また、本市市長は、年初に米国シリコンバレーを視察し大いに刺激を受け、7月の定例記者会見では「“浜松バレー”みたいなコミュニティが作られれば、そこから新たな創業が生まれてくるのではないかと思う。」と創業支援に前向きな発言をしている。JETRO ロサンゼルスやロサンゼルス市内のインキュベーション施設を視察し、“浜松バレー”構想実現に向けた政策立案に役立てる。

【視察先】

1月21日（土）
◎「The　2017　NAMM　Show」　視察
- ヤマハブース訪問
- 浜松市ブース訪問

1月22日（日）
◎「The　2017　NAMM　Show」　視察
- カワイブース訪問
- 浜松市ブース訪問

1月23日（月）
◎ Musicians Institute　視察
◎ JETRO Los Angeles 視察
◎ LACI（インキュベーション施設）視察

1月24日（火）
◎ AMERICAN HONDA MOTOR CO.,INC. 視察

浜松市議会　市民クラブ
「アメリカ合衆国　視察」行程表

【概　要】　日　程　　2017年1月20日（金）～1月26日（木）　5泊7日（内、1泊機内泊）
視察先　　アメリカ合衆国（アナハイム市・ロサンゼルス市）
参加者　　斉藤晴明、徳光卓也、丸井通晴、平間良明、鈴木唯記子、北野谷富子

【行程表】

	日付	都市名	時間	交通	行程
1	1月20日 （金）	羽田 アナハイム	22:55 15:50	**NH106** 専用車 ↓	空路ロサンゼルスへ　（日付変更線通過） ロサンゼルス到着後、ホテルへ 【アナハイム泊】
2	1月21日 （土）	アナハイム	終日	シャトル	NAMM Show視察（ホテル⇔会場/シャトル利用） ・ヤマハブース訪問 【アナハイム泊】
3	1月22日 （日）	アナハイム	終日	シャトル 専用車	NAMM Show視察（ホテル⇔会場/シャトル利用） ・カワイブース訪問 専用車にてロス市内へ 【ロサンゼルス泊】
4	1月23日 （月）	ロサンゼルス	午前 午後	専用車 ↓ ↓	「Musicians Institute」視察（3時間） 「JETRO Los Angeles」視察（1時間） 「LACI」(インキュベーション施設)視察（2時間） 【ロサンゼルス泊】
5	1月24日 （火）	ロサンゼルス	午後 21:00	専用車 ↓ ↓	「AMERICAN HONDA MOTOR CO.,INC.」視察（2時間） 空港到着、チェックイン。
6	1月25日 （水）		00:05	**NH105** ↓	空路、羽田へ（日付変更線通過） 【機内泊】
7	1月26日 （木）	羽田	05:25	↓ ↓	羽田空港到着 入国手続き終了後、浜松へ

事前勉強①

NAMM Show の参考とするため、日本最大の楽器総合イベントである「2016 楽器フェア」（11 月 4 日～6 日開催）を視察した。

1. 視察日時　　2016 年 11 月 4 日（金）
2. 視察場所　　東京ビッグサイト
3. 視察内容

会場は東京ビッグサイト西１・２ホール。会場は楽器のジャンルごとに「アコースティックギター」「エレキギター」「打楽器」「コンピュータ・デジタル」「弦楽器・管楽器」「鍵盤」などに分かれている。よって、総合楽器メーカーであるヤマハなどは各エリアにブースを構えている。

「楽器の最新情報と音楽情報を提供する世界最大のコンシューマー向け楽器ショー」を明言しているフェアだけあり、各メーカーの最新モデルが並び、それらの多くは手にとって演奏することもできる。また、各エリアにはステージが設けられ、デモンストレーション演奏などが行われている。実際の楽器を見て、触って、弾いて、聴いて、体験することができるイベントとなっている。

この楽器フェアに、今回初めて「浜松市ブース」が開設された。このブースは、

浜松市産業部産業振興課が音頭を取り、今回は市内の４企業が出展している。㈱三創楽器製作所（東区）はチェンバロとライアー（竪琴）、トムズ・ラボ（北区）は垂直同軸 360°完全無指向性スピーカーシステム、㈱山一木研（中区）はピアノ背付き高低自在椅子、ライト・イア合同会社（中区）はピロースピーカー、などを展示しており、いずれの企業の説明員も熱心に説明していただき、「楽器のまち浜松」を実感することができた。

4. 所感

・ 浜松市が初めての取り組みとして共同で市内業者４社と初出展した。楽器と音響がそれぞれ出展されていたが、「大手メーカーの隙間をどのように進めていくのかが最大のポイントである」「職人・技術者の確保・継承が難しくなっているので行政としての支援が必要」などの声があり、今回の共同出展がそうした課題も含めて検討していく必要がある。

・ 楽器フェアの視察では、広い会場の中で本市ゆかりの「ヤマハ」「カワイ」「ローランド」など大手楽器メーカーのブースが多くを占めており、改めて本市の楽器産業が業界をリードする存在だと実感した。そこに「楽器のまち浜松」としてブースを構え、中小企業４社の製品展示は、より多くの人に製品を見てもらうことができ、出展企業から大変有意義であるとお聞きした。出展者間の技術コラボレ

ーションによる製品も展示されていたが、今後、多くの企業の参加によりこの様な出展企業間の技術を組み合わせたコラボレーション製品が誕生するのではないかと期待するところ。

・ これら大型展示会への出展は先端技術や独自技術を多くの方に披露できる一方で、商標登録や特許登録がおろそかな場合に第三者による登録や、製品の模倣など知的財産の訴訟リスクが伴う。中小企業は技術力があっても規模が小さく知的財産の保護に対して十分な対応が取れないと思うので、新規起業促進や中小企業の海外進出展開を進める本市として、これらのサポート体制の充実が必要と考える。リスク対応は出展企業側が対応すべきだが、浜松市ブースに出展するからには本市もこれらリスクについて確認しておく必要があり、出展製品の保護対応について確認を求めていく。

・ 浜松市ブースではスピーカーが紹介されており「非可聴音」を再生できるものがあった。脳の活性効果が期待できるなど、音楽を楽しむだけでなく一歩も二歩も進んだ商品が日々開発されていることを改めて知った。本市で生み出される素晴らしい商品を広く認知してもらうために、今回の音楽フェアのような大きなイベントに出展する機会は非常に重要で効果的だと感じることができた視察となった。

・ 今回、この楽器フェアを通して、本市の楽器産業の偉大さを感じることができた。出展している多くの企業が様々な演出で自社製品をＰＲしている中、本市を代表する企業のブースの大きさに驚愕した。そのブースの目前に、大きさは控えめだが「浜松市ブース」があるが、自治体名が入ったブースが他にはなく、大変目を引くものだった。今後、ロザンゼルスで開催される NAMM Show でも「浜松市ブース」を出展するが、更に市を挙げて市内企業を応援していく必要があると感じた。

・「浜松市ブース」に今回出展していただいた４社は、製品分野も様々であり、本市の楽器産業のすそ野の広さの一端を感じることができた。また、ある出展者の方から自社製品に“made in HAMAMATSU”と入れたいとの話もあり、このような発想も、この楽器フェアに自治体として参加した成果であると感じた。来年１月、ロサンゼルスで開催される NAMM Show にも「浜松市ブース」を出展する。ぜひ、様々な機会をとらえて技術力のある本市の中小・零細企業を積極的に PR する場を設定していただきたい。

事前勉強②

今回の視察先であるNAMM ShowやMUSICIANS　INSTITUTEに関する話、ロサンゼルス周辺のインキュベーションの概要などについて、JETRO ロサンゼルスの前所長である[redacted]氏を招き、お話を伺った。

1．講義日時　　2016年12月21日（水）13:00～14:00

2．講師　　[redacted]氏

日本貿易振興機構（JETRO）ビジネス展開支援部　総括審議役

（JETROロサンゼルス前所長）

3．講義内容

・ NAMM Show

ロサンゼルス郊外アナハイムで行われる全米音楽楽器協会主催の世界最大の楽器見本市であり、世界120の国や地域から10万人を超える来場者がある。ヤマハ、河合楽器、ローランドなどの日本企業も参加している。

NAMM Showに浜松ブースを出すと聞くが、中小企業のビジネスチャンスにつながる可能性は大いにあると感じる。また、2016年1月のNAMM Showには浜松市長が招かれており、2017年NAMM Showに市民クラブが視察する意義は大きい。ぜひ、この規模を体感してほしい。

・ MUSICIANS　INSTITUTE

㈱イーエスピー（代表取締役：渋谷尚武氏）が運営する音楽学校。ロサンゼルス市ハリウッド地区に本部を置く。1994年に設置された。ジャズやブルース、ロックなどの現代アメリカ音楽を専門としており、音楽短期大学や専門課程なども併設している。現在、日本にも6校（東京、大阪、名古屋、札幌、福岡、仙台）を展開している。

2017年夏ロサンゼルス市内ハリウッド（ドルビーシアター内）に開設予定のJAPAN　HOUSEの運営業務をESP社が受託している。

なお、㈱イーエスピー代表取締役の渋谷尚武氏は、大学卒業後、河合楽器製作所、日本楽器製造（現ヤマハ）に勤務し、そこで得た知識をもとに1975年に20代の若者3人とともにギターメーカーのESPを創業。その後、教育事業やエンターテインメント事業を展開している。

校長のドニー氏は、あらゆることに「何かやろうよ」と前向きに対応する方。2015年に浜松も訪れており、アクトシティや楽器メーカーを回り「浜松はすごい」と驚いていた。

・　ロサンゼルス周辺のインキュベーションの概要

事業の創出や創業を支援するサービス・活動（インキュベーション）が盛んな地域を上位から並べると、１位シリコンバレー、２位ニューヨーク、３位ロサンゼルス、４位ボストンとなる。どの地域も有名大学があり、その大学と協力することにより、実績を上げている傾向にある。

視察予定の LACI は、2011 年 10 月にロサンゼルス市およびロサンゼルス電力水道局と共同で設立した環境に特化したインキュベーション施設。ロサンゼルス市長の環境政策の一環で UCLA や USC 等の大学、ロサンゼルス商工会議所等も協力している。2015 年 11 月に現在の場所に移転。６万平方フィートの広さを誇る新施設は、敷地内の電源を太陽光発電で賄い、排水を再利用した水を植栽用に使うなど、環境への配慮が随所に見られる。また、貸しオフィスや会議室などの基本的な設備に加え、製品の試作品を作るためのプロトタイプセンターが設置されているなど、起業を目指す環境は整備されている。

インキュベーション施設は、その地域に大学や産業があることが必要。浜松は世界的企業が多数あり、「浜松バレー」を目指す環境にあると思う。

氏　名	鈴木　唯記子
担当日	2017 年 1 月 21 日(土)～22 日(日) NAMM Show(浜松市ブース、カワイブース)

【施設概要】

NAMM Show 会場は、アナハイムコンベンションセンター地下１階・１階・２階・３階と、ステージ照明・音響ブースのアリーナホール、隣接したマリオットホテルではヤマハブースが出展している。野外中央広場ではフードトラックが並び、その先のニッサングランドプラザステージで構成されている。

メイン会場１階は A～D の４ブロックに分けられており、「浜松市ブース」は１階 B の奥、カワイブースは２階に設置されていた。

【視察内容】

世界最大規模の楽器国際見本市「NAMM Show」に、今回、自治体出展初となる浜松市ブースと、市内楽器メーカーブースの視察。

・浜松市ブースの出展目的

「楽器生産のまち」である本市は、大手３メーカーのほかにも、世界に通用する優れた製品を持つ中小企業が数多く存在する。昨年１２月に市内で開催した「楽器メーカーズフェスティバル」の出展企業の中に、海外販路開拓に関心がある企業が複数あることが分かったことから企業支援とともに、楽器産業界における本市楽器産業の関連国際的プレゼンスの更なる向上を目指す。

・経緯

（平成２７年１０月１９日）

NAMM Show CEO のジョー・ラモンド氏と鈴木副市長との面談で平成２８年１月の NAMM Show への浜松市長招待と、市内楽器関連の中小企業出展について支援の要望を受けて、市長が参加決定。

（平成２７年１２月５日～６日）

浜松楽器メーカーズフェスティバルが開催され、大手３メーカーに加え、市内中小企業３３社が出展した。海外販路開拓に関心がある企業が複数存在することが分かったが、中小企業では単独出展が難しいことが検討事項であがった。

（平成２８年１月２０日）

NAMM Show 開幕前日に開かれる国際連携会議（International Coalition Meeting）に参加し次回 NAMM Show への参加を表明した。　国際連携会議は、NAMM をはじめ、各国の業界団体や企業の代表が出席して、情報交換やセミナー、ディスカッション、昼食会を行

う。鈴木市長も会議スピーチにて本市の概要と取り組みを紹介した。

≪浜松市ブース出展企業≫

［浜松市］

・対応者　浜松市産業部　産業振興課　産業振興課長　瀧下且元 氏
　　はままつ首都圏ビジネス情報センター長　山田英二 氏
　　海外支援グループ長副主幹　中野昭徳 氏
　　地域産業グループ主任　中田希 氏
　　浜松地域イノベーション推進機構
　　事業推進部企画・マーケティンググループ主幹　木下真弥 氏

［株式会社　久米］

・対応者　取締役専務　[redacted]氏、部長　[redacted]氏、工具開発　[redacted]氏
・所在地　東区半田山
・業　種　管楽器販売・修理、管楽器修理工具製造・販売
・出展物　管楽器リペア器具、マウスピース抜き器

（株）久米は、会場ではドラムペダルを利用して管楽器をリペアできる特殊な器具の展示と修理の実演を行っていた。
管楽器のカーブ部分は厚さ３～８ｍｍと薄いため傷や凹みが付きやすい。息の響きで音を発しているので、変形により音色がかわってしまう。元々、管楽器の修理が仕事のため、修理を生業としなければ会社としては儲からないのだが、学校で使われている楽器は修理頻度も高いことから、修理代もかさむため、困っている学校が多かった。役に立ちたいという社長の強い気持ちから、学校で自分でも修理ができる器具を考案、販売しているほか、管楽器のリペアスクールもおこなっている。今回、実演展示を行ったことは、カタログだけでは伝わらない手軽さやイメージが伝わり大きな成果である。

［有限会社　富永工業］
・対応者　代表取締役　富永誠一 氏
・所在地　浜北区新原
・業　種　機械部品加工業
・出展物　アルミ製リガチャー

サックスなど管楽器のリガチャーはこれまで、ステンレス製のものしかなく、富永社長自身が求める製品がなかったため、アルミ製リガチャーを制作したことが、製品開発のきっかけ。形にするまでに４～５年かかった。アルミは材質的に、少しの息で楽に音が出せるため、初心者でも使いやすい。カラフルな音色も他にはない製品の特長だが、リガチャーの形状は円形に見えるが実は円錐形のため、機械で曲げると傷が付いてしまい色がのらない。全て熟練の職人による手作業で曲げているほか、着色はバイクのホイル、ウレタンは鯖江市の眼鏡フレームの企業にお願いするなど、楽器以外の様々なものづくり技術が駆使されてできている。ものづくりの街、浜松だからこそできた製品とのこと。

［パイフォトニクス株式会社］
・対応者　代表取締役　池田貴裕 氏
・所在地　東区将監町
・業　種　光学機械器具製造販売
・出展物　パターン形成 LED 照明装置

今回、出展品のホロライトはホログラムを応用した照明装置である。ホログラムとは、光の振幅と位相の情報を干渉縞の形で記録したものを呼ぶ。そのホログラムを作成する技術をホログラフィーといい、３次元空間の情報を２次元平面に記録・再生することが出来る究極の３次元表示方法と言われている。
このホログラフィーを用いることにより３次元情報を並列的に記録・再生することが出来る。そのためホログラムは超大容量・超高速な入出力媒体として実用化が期待されている。
池田社長は光技術を用いた３次元情報の表示・測定・処理に関する研究開発に携わってきた研究者であり「自分の研究成果を自分の手で事業化したい」という夢を実現している。通常の光は遮断すると影となるがホロライトは、光が遮断されても、全てでなければ投影できることが大きな特徴であり、この特徴を活かした製品も実用化している。例えば、フォークリフトにホロライトを設置し、フォークリフト稼働中の危険ゾーンをアーチ状の光で明示することにより、音で危険を知らせることが困難な工場において、光で危険を知らせ、作業員の安全が確保できる。これらの技術を様々な分野で生かしていけたらとしている。

［株式会社　ベストブラス］
・対応者　代表取締役社長　濱永康太 氏
・所在地　南区西町
・業　種　製造業
・出展物　トランペット、マウスピース、ミュート

ベストブラスは、金管楽器用アクセサリー等の開発企業である現会長の濵永晋二氏は、大手楽器メーカー勤務時に金管楽器設計者として活躍し、その時開発を手掛けた金管楽器用の消音器が爆発的なヒット商品となったことで知られている。
ベストブラスは、大企業が手掛けていない分野で演奏家のニーズを見つけ出し、本質を追求した付加価値の高い製品開発やタイミングよく製品化にできるのが最大の特徴である。
現会長は、40 代で同会社を設立し、それまでの技術を発展させ、一体型消音器「イーブラス」等の新製品を次々と開発した。
ホルンなどは音が出る所を調節すると消音できるが、サックスなどは指で押さえるところからも音が出ているため、消音するには全てを囲うしかない。管楽器も多い住宅事情もあり、このような消音器は売れている。
イーブラスと一般的な電子消音器との大きな違いは、電子回路がミュート内部に組み込まれていることで、不要なコードが減り、他の一体型でない電子消音器に比べ最大で 40%以上も軽量化されており、最も重いホルン用でも携帯電話やスマートフォンよりも軽い。また、楽器に装着したままでも、ケース収納できるほど小さいため、大変使いやすくなっている。

≪Kawai America Corporation≫

・対応者　社長　森直樹 氏、[redacted]
　　Master　Piano　Artisan [redacted]
・所在地　East　University　Drive　Rancho　Domingues
・業　種　製造業
・出展物　グランドピアノＧＬシリーズ、アップライトピアノ、電子ピアノＣＡ、
　　ＣＳシリーズ

カワイアメリカの森社長より、２００６年から毎年、NAMM Show に出展している。展示するピアノメーカーは年々減少し、出展当初から同スペースを維持しているのは、ヤマハとカワイの２社くらいとのことだった。アメリカは、家具としてピアノを買い求める人が多かったが、２００８年のリーマンショック以降は、純粋に楽器としてピアノを求める人が増え、それに伴い更に高いグレードの製品が求められるようになってきた。素材・設計な

ど開発投資にはかなりかけており、例えば、鍵盤の長さが変われば、タッチの重さも変わることや、同じアメリカ国内であっても、気候が異なり、湿度も違うため、影響なく演奏性能を高める努力を日々している。

今回は、目玉として2016年大晦日に放送された第67回 NHK紅白歌合戦で、X JAPANのYoshikiさんが使用した新クリスタルグランドピアノ（同型）が参考出展された。ピアノ本体にはLEDが内蔵され、曲に合わせてピアノの色をリモートコントロールできる。この様に、より自分らしくというお客様の高いニーズに答え、新しい挑戦・開発に取り組みつつ、品質向上を目指してきた結果、一番大きく高級品である「SHIGERU.K」は売り上げを伸ばしている。

また、ＧＬシリーズは、米国で影響力のある音楽業界誌ＭＭＲ誌が販売店の投票で決める表彰制度「ディーラーズ・チョイス・アワード」で「プロダクト・オブ・ザ・イヤー」、ＣＡ、ＣＳシリーズは「ホーム・デジタル・キーボード・オブ・ザ・イヤー」をそれぞれ受賞している。
2017年はカワイの創立90周年であるためアピールしていくとのことだった。

［所感］

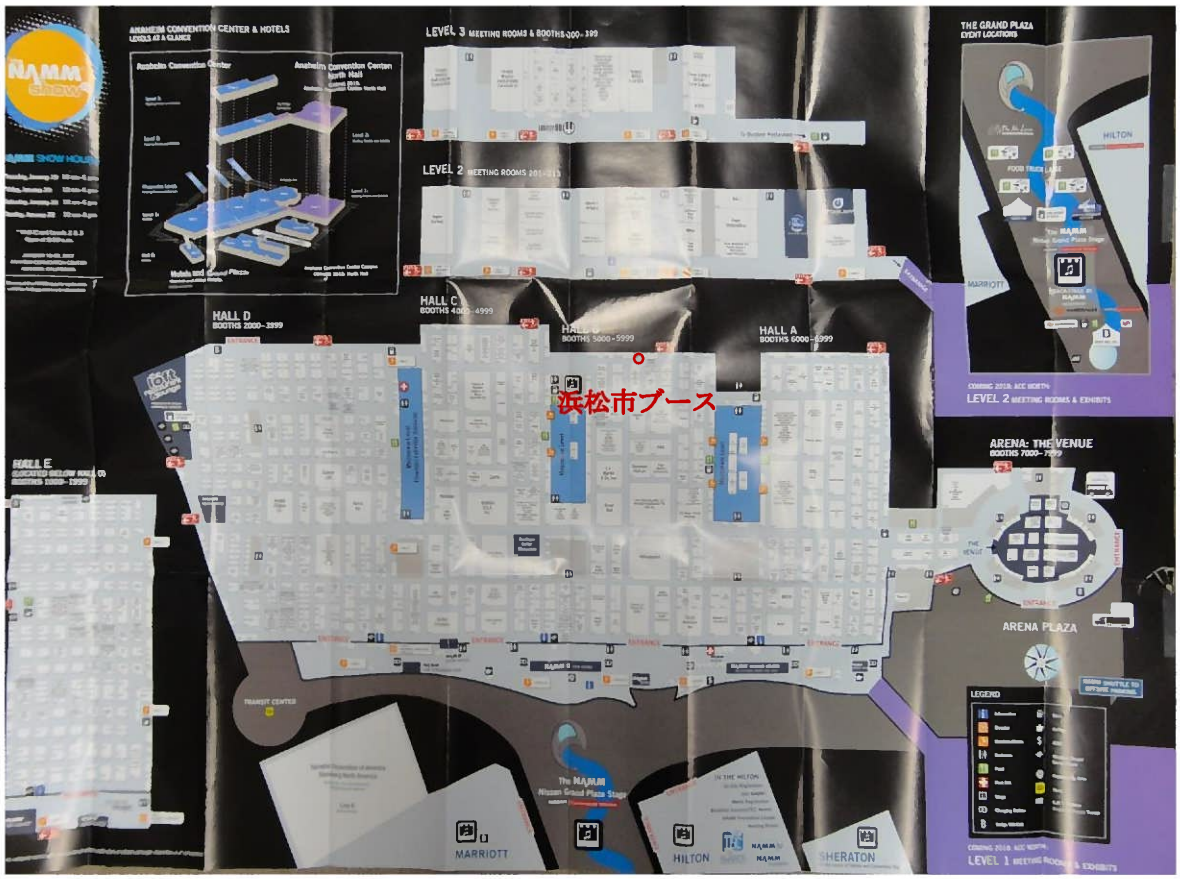
視察前に「NAMM Showへの出展は社運がかかっている」という企業があると聞いていた。世界最大規模の音楽関連の取引商談見本市「NAMM Show」は、サプライヤー・バイヤー・アーティストなど、業界関係者のみ入場可能で1,500社以上の出展があり、年々出展社・来場者数とも増加している。そのため、会場は大変広く、全ブースを見て回るには１日ではとても足りない。スティービーワンダーなど、世界的に有名な大物アーティストも訪れていて、NAMM Showの凄さを実感した。それだけに出展効果と、中小企業が出展することの難しさを、実際に現場を見て話を聞き、大きな意義があるかが分かった。

展示会場は通常、管楽器、弦楽器、打楽器、ピアノ、といったようにジャンルごと、ブース分けされているが、浜松市ブースはジャンル分けのない４社の共同ブースだからか、会場の隅の配置だった。大きな会場で当然、通路も多い。そのため、ブースの位置は、来客数に大きく左右する。他とは違う製品のため、浜松市ブースを見つけ、立ち寄った人は興味深く熱心に話を聞いていた。ホロライトは照明ブース、管楽器は管楽器ブースにあれば、もっと集客できたのではないかと考えると、そこが非常に残念に思うが合同出展では難しい要求である。

場所については条件が良い所ばかりではないので、他のブースでも様々なアイディアを駆使し宣伝をしていた。メーカー名入りのステッカーやペン、ギターのピックなどグッズを配布しているところが多かったが、中でも、イギリスのアンプメーカー「オレンジ」のハッキリしたオレンジ色のバッグは、目につくのでかなりの宣伝効果があると思った。この

ように、出展場所のマイナス面をグッズで補うなど、工夫により改善できると考えるため提案していきたい。

Kawai America の概要で触れたが、景気や時代の流れにより、楽器の国内市場は全体的に落ち込んでいる。しかし、どの企業も、他にはないオンリーワン技術や流行を作り出すなど、海外販路を開拓しながら生き残りをかけて様々な工夫をしている。今回、特に本市の企業は、「ものづくりのまち浜松」ならではの、オートバイの加工・塗装技術、高圧鋳造機など、本来、楽器製作には使用されない機械・技術や材質を使い、全く違う観点からの製品を生み出している企業や大企業で習得技した技術を使った新製品を開発する中間企業があることを知る機会になった。
海外で活動している企業、また海外販路開拓に関心がある企業いずれも今後、本市の産業振興の重点施策である海外販路開拓支援を、より良いものとするため、出展したい企業が真に求める支援について、しっかり現場の声を聞きながら施策の PDCA サイクルを回す必要性を強く思った視察になった。



氏　名	北野谷　富子
担当日	2017 年 1 月 21 日(土)～22 日(日) NAMM Show（ヤマハブース）

【施設概要】

１月に毎年アメリカで開催されているＮＡＭＭ Show は、基本的に招待を受けた楽器ディーラー、メーカー、アーティスト、プレス関係者などが入場できるプレミアムなイベントで、一般客は入場できない。１５００社以上が出展している。

また様々な楽器メーカーが ＮＡＭＭ Show で新製品を発表することでも有名で、その内容が１年間の楽器業界の運命を左右すると言われる程、重要な楽器見本市である。

≪YAMAHA ブース≫

【対応者】　ヤマハ　コーポレーション・オブ・アメリカ　社長　福留斎 氏

【訪問先概要】

今年は、ヤマハの管楽器・ギター・ドラムが 50 周年を迎える節目の年、更には音楽業界に革新をもたらしたディスクラビアやデジタルミキサーも 30 周年を迎える。ヤマハのブースは、アナハイム・コンベンションセンターに隣接するアナハイム・マリオット・ホテルの１階フロアを全て貸し切り、鍵盤楽器、管楽器、弦楽器、打楽器、音楽制作機器、音響機器などの 70 以上の新製品を、著名アーティストのライブパフォーマンスやプロダクトスペシャリストによるデモンストレーションを交えながら紹介されていた。その会場に足を踏み入れた私たちを、まずは 50 周年記念ドラムが出迎えてくれた。

それぞれの楽器ごとに担当者が熱心に説明してくださり、歴史や最新技術を学んだ。その中でも気になったのは、サイレントの技術だ。私たちの前にチューバ（楽器）でサイレントブラスの商品を試しているお客様がいた。見るからに演奏しているのだが、音が全く聞こえない。周りが賑やか

だから？耳を近くまで寄せたが音は聞こえなかった。これを使えば、小中学校の放課後、一生懸命練習している吹奏楽部の音を“騒音”と言われることがなくなる。すぐにそう感じた。更にヤマハ独自の新技術「Brass Resonance Modeling（ブラス レゾナンス モデリング）」により、イヤホンを通しても生楽器の音を再現することが可能だという。この技術で、趣味として音楽を楽しむ人も増えるだろう。サイレント技術に力を入れるには、この時代背景も関係していると感じた。

他にも、今までは国内外の劇場・ホール関係のスピーカーを中心に音響の文化を広げてきたが、今後は建物に埋め込み式のスピーカーに挑戦し、オフィスなどでもヤマハの技術を使用してもらえるように活躍の幅を広げていきたいと語られていた。新しいことにも積極的に取り組む姿勢に様々な“可能性”を感じることが出来た。いつのまにか私たちも楽器を手に取りワクワクした気持ちになった。

最後に福留社長と数人の役職の方々と話をした際に、印象に残っている話がある。「そもそも、アメリカは学校の教員全員が楽器を演奏できる。それはピアノだけではなく、管楽器や弦楽器においてもそうだ。すべての教員が出来るということは、子どもたちも楽器に触れる機会が多く、次第に興味を持つ。環境が整っているため、当たり前のように演奏できる。」楽器に関連する企業が多いと言われる本市ですら、吹奏楽部は人数集めに必死だ。音楽のまち？楽器のまち？楽器に触れたい、演奏したい、様々な“可能性”を摘んでしまうことが無いよう文字通り改めて“音”を“楽”しむ環境を見直す貴重な時間をいただいたことに感謝したい。

【所感】

視察の企画当初、楽器産業の関係者より「東京ビックサイトで行われた楽器フェアに行けば、ＮＡＭＭ Showに行く必要はない。」と聞いた。それは、間違いだと確信した。そもそも、目的が全く違う。楽器フェアは、セミナーやライブイベントを開くなど一般客を対象に構成されており、有料ではあるが誰もが入場可能である。一方ＮＡＭＭ Showは、バイヤーや関係者を対象にしており一般客は入場できず、より商業的な位置づけとなっている。各メーカーの新商品が軒を連ね、世界中から集まったバイヤーたちの情報発信が非常に重要になる。一度に30台や50台という単位で売り上げることもあり、ここでの成功こそが今年一年の利益に大きく影響するのだ。

その世界的な楽器見本市に本市が自治体で初めてブースを出展したが、本市から中小企業４社が、それぞれに知恵を絞って開発した商品を持ち込み、海外のお客様に対して熱心に説明している姿は同じ市民として大変誇らしいものだった。気がつけば、ほとんどのブースに日本人の姿が見え、いかに日本が楽器産業に進出しているか身をもって感じること